

麦類の赤かび病を適期に防除しましょう！

本年産麦の生育状況は、**二条大麦では**3月末から4月上旬に出穂期を迎えていますが、**出穂期は平年より7～10日程度早まっています**。また、**六条大麦や小麦においても**、気温が高く推移していることから、**出穂期が早まることが予想されます**。そのため、寒の戻りによる不稔粒の発生と、それに伴う赤かび病の多発が懸念されることから、**適期防除を徹底しましょう。**



写真1 赤かび病(六条大麦)

- ・麦類の赤かび病は、子実収量や品質を低下させる重要病害です（写真1）。本病菌は、人畜に有害なかび毒（DON、NIV等）を産生するため、農産物検査の規格では、食用の全麦種で赤かび粒の混入限度が0.0%を超えないこと、と定められています。
- ・予防的に防除を行い、発生防止に努めることが重要です。

【防除対策】

- ・表1を参考に、出穂や開花の状況をよく観察し、**ほ場・麦種ごとの防除適期を逃さない**よう、防除を徹底する。
- ・薬剤感受性の低下を防ぐため、FRACコードの異なる薬剤をローテーション散布する（表2・3）。
- ・不稔粒が発生したほ場は、赤かび病多発のおそれがあるため、追加防除を実施する。
- ・**表1の防除適期は水稲作業の繁忙期であるが、薬剤散布は散布時期が重要なため必ず行う。**

表1 麦種ごとの防除適期

麦種	防除適期	多発のおそれがある場合 (不稔粒発生や登熟期連続降雨など)
二条大麦	穂揃い期7～10日後（葎殻抽出期※1）	1回目の7～10日後に2回目散布
六条大麦	開花始め※2と開花10日後の2回散布	3回目散布
小麦	開花始め※2と開花20日後の2回散布	3回目散布

※1：穎の先端から葎殻(受粉を終えた葎の殻)が押し出されてくる時期

※2：抽出した葎を初めて認めた日



写真2 【二条大麦】
穂揃い期7～10日後
(葎殻抽出期)



写真3 【六条大麦】
開花始め



写真4 【小麦】
開花始め

※矢印の黒色部分が抽出した葎殻

表2 麦類の赤かび病に登録のある主な薬剤（令和5（2023）年4月5日現在）

農薬名	作物名	希釈倍数 (散布液量)	収穫前日数/ 本剤の使用回数	薬剤系統名	FRAC コード
シルバキュアフロアブル	大麦	2000倍 (60~150L/10a)	14日前まで/2回以内	DMI剤	3
	小麦		7日前まで/2回以内		
ワークアップフロアブル	麦類	2000~3000倍 (60~150L/10a)	7日前まで/3回以内		
チルト乳剤25	大麦	1000~2000倍 (60~150L/10a)	21日前まで/1回		
	小麦		3日前まで/3回以内		
トップジンMゾル	麦類 (小麦を除く)	1500倍 (60~150L/10a)	14日前まで/3回以内 (出穂期以降は1回以内)		
	小麦	1000~1500倍 (60~150L/10a)	14日前まで/3回以内 (出穂期以降は2回以内)		
トップジンM水和剤	麦類 (小麦を除く)	1000~1500倍 (60~150L/10a)	30日前まで/3回以内 (出穂期以降は1回以内)		
	小麦		14日前まで/3回以内 (出穂期以降は2回以内)		
ストロビーフロアブル	麦類 (小麦を除く)	2000~3000倍 (60~150L/10a)	14日前まで/3回以内	QoI剤	11
	小麦				
ミラビスフロアブル	大麦	1500~2000倍 (60~150L/10a)	14日前まで/2回以内	SDHI剤	7
	小麦	1500~2000倍 (50~150L/10a)	7日前まで/2回以内		

注1：必ず農薬容器のラベルをよく読み、使用方法・使用上の注意事項を守る。

注2：薬剤抵抗性の発達を防ぐ観点から、FRACコードが同一のものは連用を避ける。

表3 無人航空機による散布の登録がある主な薬剤（令和5（2023）年4月5日現在）

農薬名	作物名	希釈倍数 (散布液量)	収穫前日数/ 本剤の使用回数	薬剤系統名	FRAC コード
シルバキュアフロアブル	大麦	16倍 (0.8L/10a)	14日前まで/2回以内	DMI剤	3
	小麦		7日前まで/2回以内		
ワークアップフロアブル	麦類	10~24倍 (0.8L/10a)	7日前まで/3回以内		
チルト乳剤25	大麦	8倍 (800mL/10a)	21日前まで/1回		
	小麦		7日前まで/3回以内		
トップジンMゾル	麦類 (小麦を除く)	8倍 (0.8L/10a)	21日前まで/3回以内 (出穂期以降は1回以内)		
	小麦		14日前まで/3回以内 (出穂期以降は2回以内)		
ミラビスフロアブル	大麦	8~16倍 (800mL/10a)	14日前まで/2回以内	SDHI剤	7
	小麦		7日前まで/2回以内		

注1：必ず農薬容器のラベルをよく読み、使用方法・使用上の注意事項を守る。

注2：薬剤抵抗性の発達を防ぐ観点から、FRACコードが同一のものは連用を避ける。

詳細は、農業環境指導センター（TEL 028-626-3086）までお問合せ下さい。



病害虫情報発表のお知らせは「栃木県農政部ツイッター(@tochigi_nousei)」
農業環境指導センターホームページ (<http://www.jpnn.ne.jp/tochigi/index.html>)
でもご覧になれます。

← New Instagramはじめました。

農作物病害虫図鑑@とちぎ

#栃木県#病害虫図鑑 検索&フォローよろしくお願いします！

